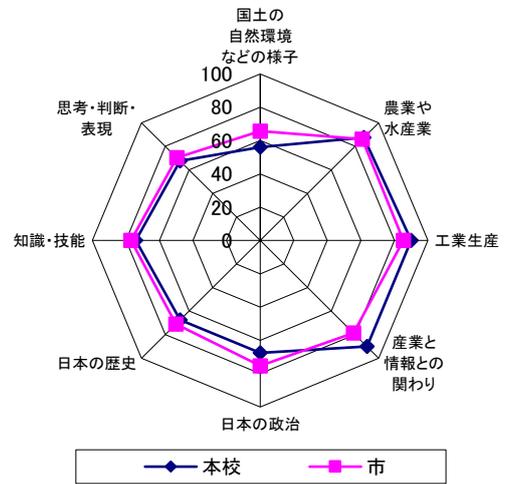


# 宇都宮市立清原北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	56.0	65.7	67.0
	農業や水産業	87.5	86.1	77.5
	工業生産	90.0	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	90.0	78.6	69.6
	日本の政治	67.5	75.2	65.8
	日本の歴史	67.5	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.1	77.0	72.8
	思考・判断・表現	67.5	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均の正答率は、市の平均を10ポイント下回っている。</p> <p>○日本の周辺の国と領土の端について理解している児童が市より10ポイント多い。</p> <p>●日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え判断することができない児童が市より4ポイント多かった。</p>	<p>○日本周辺の国々、アジアの国々などの話題を積極的に取り上げ、日本との関係に目を向けさせる。</p> <p>●雨温図の読み方を再度確認するとともに、天気予報を見るなど、各地の気候の特徴を理解できるようにする。</p>
農業や水産業	<p>平均の正答率は、市の平均を1ポイント上回っている。</p> <p>○米作りについて、適切に資料を読み取れる児童が市より7ポイント多かった。</p> <p>●水産業の変化を、資料から読み取れた児童が市の平均より5ポイント少なかった。</p>	<p>●資料の読み取り方を再度確認するとともに、その資料はどんなことを表した資料なのか、何が分かりそこからどんなことが言えるのかなどを意識しながら資料を読み取るよう指導する。</p>
工業生産	<p>平均の正答率は、市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>○日本の工業製品の種類や環境に配慮した自動車について理解している児童が市より7ポイント多い。</p>	<p>●今後も工業生産に関する映像資料等を効果的に活用し、身近な問題としてとらえさせる。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均の正答率は、市の平均を11ポイント上回っている。</p> <p>○情報産業の役割や情報の正しい受け取り方について理解している児童が市より8ポイント多い。</p>	<p>●情報化社会を生きる児童に、情報ネットワークのよさやモラルについて引き続き指導していく。</p>
日本の政治	<p>平均の正答率は、市の平均を8ポイント下回っている。</p> <p>●日本国憲法や裁判のしくみ、国会のはたらきについて理解していない児童が多かった。</p>	<p>●日本国民の権利や義務、国会や裁判所などの働きについて身近な問題としてとらえていない児童が多い。権利や義務など直接かかわってくるものであることを再認識させる。</p> <p>●既習事項を忘れてしまっている児童が多いため、復習をさせ、理解の定着を図る。</p>
日本の歴史	<p>平均の正答率は、市の平均を4ポイント下回っている。</p> <p>○縄文時代から平安時代までの生活や政治については市の平均を上回り、理解している児童が多い。</p> <p>●鎌倉時代、室町時代の人物や文化の特徴については、市の平均を10ポイント以上下回るなど、理解している児童が少なかった。</p>	<p>●人物が増えたことで、混乱してしまう児童が見られた。人物を暗記するのではなく、人物の特徴や政治、その時代の背景など関連させながら、考えたり想像したりする楽しさを感じられるようにする。</p>